

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
広島工業大学 専門学校	昭和59年1月14日	玉 野 和 保	〒733-8533 広島県広島市西区福島町2-1-1 (電話) 082-295-5111			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人鶴学園	昭和32年11月27日	鶴 衛	〒731-5193 広島県広島市佐伯区三宅2-1-1 (電話) 082-921-3121			
目 的	企業における即戦力となる人材を育成するために、座学および実習科目を通じて電気に関するものづくり、保安などを担う学生を養成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	工業専門課 程	電気工学科	2年(昼)	2,080単位時間	平成19年文部科学 大臣告示第20号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	928単位時間	0単位時間	0単位時間	1,216単位時間	0単位時間	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	57人	4人	6人	10人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 定期試験・課題・小テストや、授業態度、また出席状況等を総合的に判定し、科目担当教員が評価。	
長期休み	■学年始め：4月4日 ■夏 季：7月22日～8月31日 ■冬 季：12月23日～翌年1月7日 ■学 年 末：3月18日～4月3日			卒業・進級条件	卒業条件は、学科の定める卒業認定単位数を満たしていること。進級条件は、出席率80%以上、必須科目の単位の取得を原則とし、学科判定会議、学校全体の認定会議で審議。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 出席率不良(80%未満)学生について、個別の状況把握に努め早期対応を行う。長期欠席者に対しては学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて生活指導・進路指導を行う。			課外活動	■課外活動の種類 地域ボランティア清掃、広島市グリーンパートナー、みちのく未来基金募金活動等。 ■サークル活動 (有・無)	

就職等の状況	■主な就職先、業界等 (一財) 中国電気保安協会, (株)サテック, 浅海電気(株), 東海電設(株), 満長建設工業(株) ■就職率^{※1} 100% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 95.2% (平成25年度卒業者に関する平成26年3月時点の情報)	主な資格・検定 第三種電気主任技術者 第一種電気工事士 第二種電気工事士 2級電気工事施工管理士 消防設備士
中途退学の現状	■中途退学者3名 ■中退率 3.9% 平成27年4月1日在学者 77名 (平成26年4月入学者を含む) 平成28年3月31日在学者 81名 (平成28年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 (就職) ■中退防止のための取組 中途退学は学生本人の生涯に関わる事柄であるため、学科長、校長等が本人に対して保護者を交えて進路指導を行い、中退防止に努めている。	
ホームページ	URL: http://www.hitp.ac.jp/	

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

電気業界の現場で、リーダーの素質を持った中堅技術者を育成するため、企業等と連携し、教育課程編成委員会を開催する。人材の専門性に関する動向及び業界で求められる専門知識・技術・資格等について意見や提言等を承り、学科のカリキュラム編成や授業内容・方法等の改善に反映させる。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年9月1日現在

名前	所属
中村和彦	一般財団法人 中国電気保安協会
坂本宏	株式会社 電力サポート中国
佐々木隆雄	満長建設工業株式会社

(開催日時)

第1回 平成28年5月18日 15:00～16:30

第2回 平成29年1月18日 15:00～16:30 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

電気工事士として、電気工事現場での実務作業をするために必要となる専門的知識や技術・技能を学生に習得させるため、専門性で特化している電気工事関連会社を選定し、当該企業の技術者を講師とする実践的な授業を展開することとする。また、同時に実習における学習成果等に対して評価を行う体制を学校と連携して取ることが可能な企業であることとしている。

科目名	科目概要	連携企業等
電気工事実習Ⅱ	電気工事に必要な工具の使用方法和材料の知識を深め、安全作業について学習し、電線の接続方法を修得した後、各自がさまざまな低圧屋内配線工事等を施工できる能力を身につける。	株式会社中電工 満長建設工業株式会社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員の専門的な知識や技術・技能と学生に対する指導力等の向上を図るため、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会での審議を通じて示された意見や情報等を十分に把握した上で研修等を計画・実施し、教育活動の充実に努めることを基本方針とする。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年9月1日現在

名前	所属
国貞和彦	学校法人広陵学園 広陵高等学校
高羽威	一般社団法人 広島県情報産業協会 人材開発委員長
木谷幸江	公益財団法人 日本照明家協会
宮内秀実	河井建設工業株式会社
山本博	テンパール工業株式会社
大畠晋也	広島工業大学専門学校同窓会

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.hitp.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 電気工学科) 平成28年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			生き方講座Ⅰ	学生生活を充実するための基礎学力の向上、将来の人生観及び職業観の育成。社会に出て、仕事をやっていく上での一般教養及び一般常識を学び、理解すると同時に、文書作成方法、ビジネスマナーなどを身につける。	1前	32	1			○
○			生き方講座Ⅱ	学生生活を充実するための基礎学力の向上、将来の人生観及び職業観の育成。社会に出て、仕事をやっていく上での一般教養及び一般常識を学び、理解すると同時に、文書作成方法、ビジネスマナーなどを身につける。	1後	32	1			○
○			生き方講座Ⅲ	学生生活を充実するための基礎学力の向上、将来の人生観及び職業観の育成。社会に出て、仕事をやっていく上での一般教養及び一般常識を学び、理解すると同時に、文書作成方法、ビジネスマナーなどを身につける。	2前	32	1			○
○			生き方講座Ⅳ	学生生活を充実するための基礎学力の向上、将来の人生観及び職業観の育成。社会に出て、仕事をやっていく上での一般教養及び一般常識を学び、理解すると同時に、文書作成方法、ビジネスマナーなどを身につける。	2後	32	1			○
○			文章技術	明快で論理的な「レポート」「実習報告書」等の作成能力を育成すると共に、論理的な思考を養う。	2前	32	2	○		
	○		情報技術Ⅱ	表計算ソフトを利用し、様々な場面を想定した問題解決方法を身につける。検定試験にも積極的に取り組み、技術向上を図る。Excel 関数の基礎知識を習得し、社会にでてあらゆる分野で必要と思われる表操作の活用能力を高める。	2後	32	1			○
	○		情報技術Ⅰ	コンピュータを利用した文書作成能力を身につける。検定試験にも積極的に取り組み、技術向上を図る。Wordの基礎知識を学習して、文章作成、案内状の作成、図形・描画の挿入、はがきの作成と印刷等の日常の作業に必要なスキルを習得する。	2前	32	1			○

○			電気磁気学 I	電気工学の根幹を構成する理論を学習するためには重要な学問である。電気現象と磁気現象の本質について学習することにより、電気回路、電子回路、電気機器、発電、送電、配電工学などを理解する基礎能力を養う。	1 前	32	2	○		
○			電気磁気学 II	電気磁気学は、電気工学の根幹を構成する理論を学習するためには重要な学問である。電気現象と磁気現象の本質について学習することにより、電気回路、電子回路、電気機器、発電、送電、配電工学などを理解する基礎能力を養う。	1 後	32	2	○		
○			電気回路 I	電気回路理論は、電気磁気学と同様に電気工学を理解するために必要な基礎理論である。直流回路について学習した後、交流回路の定理や計算方法について学習し、電気計測や機器など電気工学の全分野を理解するための基礎能力を身につける。	1 前	32	2	○		
○			電気回路 II	電気回路理論は、電気磁気学と同様に電気工学を理解するために必要な基礎理論である。直流回路について学習した後、交流回路の定理や計算方法について学習し、電気計測や機器など電気工学の全分野を理解するための基礎能力を身につける。	1 後	32	2	○		
○			電気回路 III	1年次の電気回路の学習に引き続いて、2年次では交流回路の基本的解析手法を三相交流に適用して学習する。さらに、回路網の解析手法について学ぶと共に、ひずみ波交流、過渡現象、分布定数回路等についても学習する。	2 前	32	2	○		
○			電気回路 IV	1年次の電気回路の学習に引き続いて、2年次では交流回路の基本的解析手法を三相交流に適用して学習する。さらに、回路網の解析手法について学ぶと共に、ひずみ波交流、過渡現象、分布定数回路等についても学習する。	2 後	32	2	○		
○			電気計測	電気計測の理論と電気計測機器は、さまざまな分野で広く応用されている。ここでは、計測機器の動作原理および応用について学習した後、デジタル技術を応用した計測機器および実務の計測技術についても学習し、電気実験などで測定技術を向上させる基礎能力を身につける。	2 後	32	2	○		
○			電子回路	最近の電気機器は至る所に電子技術が利用されている。それらに対応すべく、技術を身につけるために学習する。	2 後	32	2	○		
○			発・変電工学	発電は従来より水力・火力・原子力発電が主流であったが、最近では太陽光発電や風力発電等の新しい発電が注目されている。これらの方式について学ぶと共に、変電設備についても学習する。	2 前	32	2	○		
○			送・配電工学	送電の領域は、発電所から最後の配電用変電所に至るまでの線路である。電力はすべての産業の基幹となるものであり、大量の電力の送電が、事故により停止する事態が生じると、このために生じる災害は計り知れないものがあり、被害は甚大である。また配電は線路や施設物が我々の身近かにあるので、人畜に対する保安、危険防止というこ	1 後	32	2	○		

				とが大切である。このため配電事業は電気設備技術基準なる法規によって、取り締まりを受けている。送・配電工学では、安全に良質の電気を送配するための技術を学習する。					
○			電気法規Ⅰ	我々が日頃使用している電気を安全に使用できるのは、電気法規の恩恵にあずかっているところが大きい。電気を安全に使用するために電気法規について学ぶ。	1 後	32	2	○	
○			電気法規Ⅱ	我々が日頃使用している電気を安全に使用できるのは、電気法規の恩恵にあずかっているところが大きい。電気を安全に使用するために電気法規について学ぶ。	2 前	32	2	○	
○			電気施設管理	電気を消費する側及び供給する側にとっては、安全が第一である。発電所から末端の需要家に至るまで、どのような安全対策と保護装置が用いられているのかについて学習する。	1 後	32	2	○	
○			電気材料	電気材料を作るには、多くの種類の電気材料を合理的に使用して、性能が優秀かつ経済的で寿命の長い装置を製作することが求められる。そのために電気材料の特徴を理解すると共に、どの材料を使用するのが適切かの判断ができる能力を修得する。	1 前	32	2	○	
○			電気機器Ⅰ	電気エネルギーを他のエネルギー（例えば、機械エネルギー、熱エネルギー）等へ変換する能力を持つ装置（電気機器）について学ぶ。各種の電気機器について、原理、構造、特性、運転、試験方法などを学習し、電気機器を適切に選定して効果的に利用する能力を身につける。	1 前	32	2	○	
○			電気機器Ⅱ	運動エネルギーや他のエネルギー等を電気エネルギーへ変換する能力を持つ装置（電気機器）について学ぶ。各種の電気機器について、原理、構造、特性、運転、試験方法などを学習し、電気機器を適切に選定して効果的に利用する能力を身につける。	1 後	32	2	○	
○			電気機器Ⅲ	発電所、工場など、さまざまな場所で利用されている電気機器について学ぶ。各種の電気機器について、原理、構造、特性、運転、試験方法などを学習し、電気機器を適切に選定して効果的に利用する能力を身につける。	2 前	32	2	○	
○			パワーエレクトロニクス	現在では電力用ダイオード、サイリスタ、GTO、IGBTなどのパワーデバイスがめざましい進歩を遂げ、電力の変換、制御を応用したパワーエレクトロニクスの分野は格段に広がっている。例をあげれば、エアコン、蛍光灯からソーラー発電、ロボットそして新幹線、リニアモーターカーなどがある。これらに対応できる技術を身につけるべく、パワーエレクトロニクスについて学習する。	2 前	32	2	○	

○			自動制御	自動制御はスイッチ、リレー、タイマーなどを用いたシーケンス制御の基本回路について学習した後、モーターのシーケンス制御回路、カウンタ回路、空気圧制御回路などのシーケンス制御回路の設計について学習する。その後で、フィードバック制御を中心にして、フィードバック制御の基本構成と基本要素、周波数応答法と過渡応答法、ブロック線図と伝達関数、制御系の安定性と評価などについて学習する。	2 後	32	2	○		
○			照明・電熱工学	電力応用の照明及び電熱について、電気エネルギーから光熱エネルギーへの変換の基礎を学習し、その計算能力を身につける。	2 前	32	2	○		
○			電気基礎実験	電気に関する基礎的な実験を通して電気の理論と法則を理解し、その応用である各種の電気機器と電子機器について、原理、構造、特性、運転、試験方法などを理解すると同時に、関連する測定器の使用法と測定技術を修得する。また、各テーマについてレポートを作成することにより技術的表現方法を修得する。	1 前	64	2			○
○			電気応用実験	電気に関する実験を通して電気の理論と法則を理解し、その応用である各種の電気機器と電子機器について、原理、構造、特性、運転、試験方法などを理解すると同時に、関連する測定器の使用法と測定技術を修得する。また、各テーマについてレポートを作成することにより技術的表現方法を修得する。	1 後	64	2			○
○			電気工事实習Ⅰ	電気工事に必要な工具の使用法と安全作業について学習し、電線の接続方法を修得した後、各自がさまざまな低圧屋内配線工事を施工できる能力を身につける。	1 前	192	6			○
○			電気工事实習Ⅱ	電気工事に必要な工具の使用法と安全作業について学習し、電線の接続方法を修得した後、各自がさまざまな低圧屋内配線工事を施工できる能力を身につける。	1 後	192	6			○
○			電気工事实習Ⅲ	電気工事に必要な工具の使用法と安全作業について学習し、電線の接続方法を修得した後、各自がさまざまな低圧屋内配線工事を施工できる能力を身につける。	2 前	192	6			○
○			電気工事实習Ⅳ	電気工事に必要な工具の使用法と安全作業について学習し、電線の接続方法を修得した後、各自がさまざまな低圧屋内配線工事を施工できる能力を身につける。	2 後	192	6			○
○			電気実習	現代社会において、シーケンサーはいろいろな分野に使用されている。そのシーケンサーの基本となるものは、シーケンス制御である。前半は、このシーケンス制御とシーケンサーについて学ぶ。また、一方でコンピュータによる制御も最近では著しく取り入れられている。そこで後半は、ポケットコンピュータを使って制御学習を行う。	2 後	64	2			○

○		電気CAD製図	電気設備設計図はCAD製図化が進み、公式の図面はCAD製図が一般的である。そのため、実社会で即戦力になるCAD技術の修得を目指す。	2後	64	2			○
○		電気工事施工法Ⅰ	低圧屋内配線工事の施工については、電気設備技術基準が電気工事の基本となるので、主な条項は関連条項を含めて学習し、電気工事実習などの関連科目で施工技術を向上させるための基礎能力を身につける。	1前	32	2	○		
○		電気工事施工法Ⅱ	低圧屋内配線工事の施工については、電気設備技術基準が電気工事の基本となるので、主な条項は関連条項を含めて学習し、電気工事実習などの関連科目で施工技術を向上させるための基礎能力を身につける。	1後	32	2	○		
○		電気工事施工法Ⅲ	低圧屋内配線工事の施工については、電気設備技術基準が電気工事の基本となるので、主な条項は関連条項を含めて学習し、電気工事実習などの関連科目で施工技術を向上させるための基礎能力を身につける。	2前	32	2	○		
○		電気工事施工法Ⅳ	低圧屋内配線工事の施工については、電気設備技術基準が電気工事の基本となるので、主な条項は関連条項を含めて学習し、電気工事実習などの関連科目で施工技術を向上させるための基礎能力を身につける。	2後	32	2	○		
○		配電・配線設計	電気エネルギーは、現代社会の生活、生産、娯楽、スポーツ等、あらゆる分野で欠かせないエネルギー源であり、その役割は非常に重要なものとなっている。電気は、便利でクリーンなエネルギーであるが、その扱いを誤ると感電・火災等の危険性があるため、安全性を十分考慮した設計をすることが大切である。設計を行うには、電気設備技術基準や、設計・施工・維持・検査の規範として定められた内線規程を十分理解する必要がある。以上の観点を考慮しつつ学習してゆく。	1前	32	2	○		
○		電気配線図Ⅰ	「設計図」は、その「設計意図」や「設計内容」を分かりやすく表現したものである。要望事項や法的な規制などを正しく表現するために、各種の「技術計算」・「作図工程」の立案・「図面をまとめる力」を修得する。	1前	32	2	○		
○		電気配線図Ⅱ	「設計図」は、その「設計意図」や「設計内容」を分かりやすく表現したものである。要望事項や法的な規制などを正しく表現するために、各種の「技術計算」・「作図工程」の立案・「図面をまとめる力」を修得する。	1後	32	2	○		
○		電気配線図Ⅲ	「設計図」は、その「設計意図」や「設計内容」を分かりやすく表現したものである。要望事項や法的な規制などを正しく表現するために、各種の「技術計算」・「作図工程」の立案・「図面をまとめる力」を修得する。	2前	32	2	○		

○		電気検査法	電気工作物は、その施設方法が適切でなかったり、不完全な部分があると漏電、感電、電気火災などの災害を招く恐れがある。そこで、電気工作物が使用者にとって安全に使用できる状態かどうか、技術基準やその他の関係規程類に基づき検査する方法を修得する。	1 前	32	2	○		
	○	電験対策講座Ⅰ	オームの法則、キルヒホッフの法則、交流計算、ベクトル図、三相回路計算、電力測定、コンデンサー計算等を学ぶ。第三種電気主任技術者試験の基礎固めの学習をする。	1 前	32	2	○		
	○	電験対策講座Ⅱ	磁気の本質について学び、電磁誘導とインダクタンスを理解する。また、電気計測の基礎について学び、半導体と増幅回路を学習する。電力では主に水力発電について学ぶ。第三種電気主任技術者試験の基礎固めの学習をする。	1 後	32	2	○		
	○	電験対策講座Ⅲ	火力発電と原子力発電について学ぶ。また、新しい発電方式についても学ぶ。さらに、変電と送電を学習する。第三種電気主任技術者試験の応用問題の学習をする。	2 前	32	2	○		
	○	電験対策講座Ⅳ	交流機と直流機の回転機器の原理と構造、変圧器の構造と取り扱い、パワーエレクトロニクスについて学ぶ。第三種電気主任技術者試験の応用問題の学習をする。	1 後	32	2	○		
	○	インターンシップ	企業に出向いて、電気工事、電気設備の保守点検、電気機器の製造などの実践的な実習を行う。	1 後	64	2			○
合計					49 科目		2,368 単位時間 (108 単位)